

環境目的・目標と活動結果

2008年度は一部未達成となった目標もありましたが、全体評価としては、おおむね達成されました。2009年度は、これまでの目標をさらに拡大・継続し、PDCA サイクルを確実に回すことにより、目標達成に向けて取り組んでいきます。

2008年度全社環境目的・目標に対する活動結果と2008年度の全社環境目的・目標

環境目的	業務分類	2008年度			2009年度	
		目 標	活 動 結 果	評価	目 標	備考
地球温暖化防止	施工	CO ₂ 排出量を施工高当たりの原単位で1990年度比10.8%削減	モデル現場71件で調査を実施。CO ₂ 排出量削減率 土木9.1%、建築13.6%	△	CO ₂ 排出量を施工高当たりの原単位で1990年度比11.4%削減	拡大
	オフィス	公共交通機関の利用の促進 保管書類の削減 (削減量15%以上) 電力使用量の削減 (前年度比5%以上)	タクシー利用や社用車の削減等により利用を促進 保管書類の削減量: 26~50%(支店ごとの集計) 電力使用量: 前年度比9%削減	○	公共交通機関の利用の促進 保管書類の削減 (削減量5%以上) 電力使用量の削減 (前年度比3%以上)	継続
建設副産物の再資源化率向上	施工	建設副産物のリサイクル率 アスコン塊:98%以上 コンクリート:96%以上 建設発生木材:65% 建設汚泥:75% 廃棄物全体:91% 有効利用率の向上 建設発生土:90%	建設副産物のリサイクル率 アスコン塊:100% コンクリート:100% 建設発生木材:94% 建設汚泥:84% 廃棄物全体:95% 有効利用率 建設発生土:89%	△	建設副産物のリサイクル率の向上 アスコン塊:98%以上 コンクリート:96%以上 建設発生木材:65% 建設汚泥:75% 廃棄物全体:93% 有効利用率の向上 建設発生土:90%	拡大
建設工事の混合廃棄物削減	施工	混合廃棄物排出量の軽減 ・工事施工高1億円当たり 土木工事:1.3t以下 建築工事:5.1t以下 ・建築新築工事延べ床面積当たり: 13.5kg/m ² 以下	混合廃棄物排出量 ・工事施工高1億円当たり 土木工事:2.3t 建築工事:4.2t ・建築新築工事延べ床面積 当たり:4.5kg/m ²	△	混合廃棄物排出量の軽減 ・工事施工高1億円当たり 土木工事:1.3t以下 建築工事:5.1t以下 ・建築新築工事延べ床面積 当たり:13.5kg/m ² 以下	継続
水質汚濁の防止	施工	油流出事故防止(すべての水域) 排水(油を含む)による水質汚濁 の防止(すべての水域)	外部への影響は軽微で あったが、油漏れが3件発生	△	油流出事故防止(すべての水域) 排水(油を含む)による水質汚濁の 防止(すべての水域)	継続
自主的環境活動の促進	環境配慮	社員の環境配慮活動の向上	社員の意識や活動が向上	○	社員の環境配慮活動の向上	継続
		環境配慮設計への 参画機会の増加	参画機会を捉えて、 環境配慮設計を実施	○	環境配慮設計への参画機会の増加	継続
		エネルギーの使用の合理化に 関する法律への対応	適用を受ける全案件で対応	○	エネルギーの使用の合理化に 関する法律への対応	継続
		「CASBEE」(建築物総合環 境性能評価システム)への対応	適用を受ける案件なし	—	「CASBEE」(建築物総合環境性能 評価システム)への対応	継続
環境負荷軽減 および環境創造 に寄与する業務 の促進	技術開発	資源の有効利用・リサイクル および環境改善に関する 技術開発・研究の促進	資源の有効利用と 環境改善の技術開発を実施	○	資源の有効利用・リサイクルおよび 環境改善に関する技術開発研究の促進	継続
		海面処分場の鉛直遮水壁の 遮水性能の向上	向上のための材料および 設備の設計を完了	○		完了
		リニューアル、防災事業の部門 目標を推進し環境負荷を低減	維持管理事業の実施および 新技術の開発と工事への 適用を実施	○	リニューアル、防災事業の部門目標を 推進し環境負荷を低減	継続
		有害物質の処理処分による 環境負荷の低減と水域環境の 保全・創造のための事業を推進	有害物質負荷の削減および 環境保全と自然再生の 解決案提供を実施	○	有害物質の処理処分による環境負荷 の低減と水域環境の保全創造の ための事業を推進	継続
					環境負荷軽減・環境創造を 意識し、これら業務を実施	新規 目標
	設備計画	当社保有作業船、設備の 環境負荷低減対策の推進	環境監視システムの導入 および作業船・設備・機材等 の改良・技術開発を実施	○	当社保有作業船、設備の 環境負荷低減対策の推進	継続

評価 ○: 達成 △: 一部未達成 ×: 未達成 —: 評価対象外